

令和5年度 男女共同参画に関する意識調査結果（概要版）

○調査目的

男女共同参画社会の実現に向け、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の施策の参考とすることを目的に5年ごとに実施しています。

○調査内容 (1)家庭生活について (2)職業について (3)LGBT等について
(4)男女の人権について (5)女性活躍の推進等について

○調査期間 令和5年8月19日～令和5年9月15日

○調査対象 市内に住所を有する18歳以上の男女

○抽出方法 地区別・男女別・年齢階層別無作為抽出

○調査方法 郵送による自記式アンケート

○回収結果 発送数 1,000人、調査不能数 3件、
有効発送数 997人、回収数 336人、回収率 33.7%

I 回答者の属性

(1)男女別回答数

	回答数	構成比
女性	197	58.6%
男性	138	41.1%
その他・答えたくない	1	0.3%

(2)年代別回答数

	回答数	構成比
18～19歳	6	1.8%
20～29歳	17	5.1%
30～39歳	30	8.9%
40～49歳	45	13.4%
50～59歳	54	16.1%
60～69歳	69	20.5%
70歳以上	115	34.2%

(3)既婚・未婚別回答数

	回答数	構成比
現在結婚している（事実婚・パートナーシップ関係などを含む）	217	64.6%
結婚したことはあるが、現在独身（死別含む）	63	18.8%
結婚したことがない（未婚）	56	16.7%

(4)家庭形態別回答数（既婚者のみ）

	回答数	構成比
共働き	98	45.2%
共働きではない	100	16.1%
その他	12	5.5%
無回答	7	3.2%

調査結果について

(※前回調査は平成30年度実施)

※その他・わからない。無回答を除く

■家庭生活について

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

「賛成」が前回調査より全体で5.3ポイント減少している。

「賛成と思う理由」について、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」と回答した女性が58.3%と男性の約2倍高くなっている。

(%、ポイント)

	今回調査			前回調査			増減		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性	全体	女性	男性
賛成	22.9	18.3	29.7	28.2	25.2	33.1	<u>△ 5.3</u>	△ 6.9	△ 3.4
反対	65.5	69.5	59.4	60.9	65.5	53.0	4.6	4.0	6.4

(%)

問1-1 賛成と思う理由 (今回調査)	全体	女性	男性
妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	67.5	66.7	68.3
育児・介護・家事と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから	59.7	52.8	65.9
<u>夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから</u>	42.9	<u>58.3</u>	<u>29.3</u>
日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	28.6	22.2	34.1
自分の両親も役割分担をしていたから	18.2	22.2	14.6

■職業について

問6 女性が職業をもつことに対する考え

「子どもができて、ずっと職業をもつ方がよい」が前回調査から増加し、男女ともに50%を超える割合となっている。

(%、ポイント)

	今回調査	前回調査	増減
<u>子どもができて、ずっと職業をもつ方がよい</u>	<u>52.7</u>	<u>39.6</u>	<u>13.1</u>
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	26.5	34.5	△ 8.0
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	2.7	5.1	△ 2.4
結婚するまでは、職業をもつ方がよい	1.8	3.8	△ 2.0
女性は職業をもたない方がよい	0.6	1.5	△ 0.9

問8 仕事と家庭を両立させるために必要な支援

「育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備」の割合が高いのは女性、「保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする環境の充実」の割合が高いのは男性と、「施策」か「環境」で男女間の考えが分かれている。

(%)

	全体	女性	男性
長時間労働慣行の是正やテレワークの推進など、育児や介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備	18.2	16.2	21.0
保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする環境の充実	39.9	36.5	<u>44.9</u>
育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備	41.1	<u>45.7</u>	34.1

■ L G B T等について

問9 L G B Tなどの言葉の認知度

(%)

	全体	女性	男性
L G B T	88.1	90.4	84.8
性的指向	43.8	42.6	44.9
性自認	33.6	31.0	37.0
S O G I	15.8	14.7	16.7

「L G B T」についての認知度は高いものの、その他の言葉については50%以下の認知度となり、特に「S O G I」については20%を下回っている。

■ 男女の人権について

問11 女性の人権が尊重されていないと感じること

「性暴力」や「痴漢行為」「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」などの性的な項目が上位になっている。

(%)

	全体	女性	男性
性暴力	63.1	62.4	64.5
痴漢行為	61.9	62.4	61.6
セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	60.7	62.9	58.0
家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力（DV）	57.4	56.9	58.7
ストーカー行為（つきまとい行為）	47.3	43.7	52.9
女性のわいせつ情報氾濫	46.4	51.3	39.9
交際している恋人同士の間でおこる暴力（デートDV）	45.8	44.7	47.8
売春・買春	38.1	42.1	32.6

問12.15.16 DV・セクハラ・S O G Iハラの被害経験等について

テレビや新聞報道などにより、ハラスメントに対する認知度は進んでいるが、相談窓口の認知度は低い。

(%)

	D V	セクハラ	S O G Iハラ
自分が直接被害を受けた経験がある	6.5	6.8	1.5
相談を受けたことがある	5.7	8.0	1.8
相談を受けたことはないが、当事者を知っている	18.2	10.4	4.5
テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	69.3	70.2	51.8
見聞きしたことはない	19.9	18.5	37.8

(%)

問14 相談窓口の認知度	全体	女性	男性
北海道いのちの電話（こころの健康相談電話）	48.8	53.8	41.3
帯広市役所市民相談室 （月～金、火：市民労働相談、水：無料法律相談、木：女性相談）	31.8	29.4	35.5
帯広市女性相談サポートライン（女性専用DV等相談電話）	17.0	17.8	15.9
女性の人権ホットライン（女性専用人権相談電話）	13.1	10.2	17.4
女性のための人権なんでも相談所（年4回実施）	7.7	7.6	8.0
よりそいホットライン（寄り添い型相談支援電話）	5.1	4.6	5.8

■女性活躍の推進等について

問17 各分野での男女の地位の平等感

全体的に前回調査からほとんど変化が見られず、「学校教育の場」で最も「平等」と考えられているものの、その他の項目では30%に満たない割合となっているほか、平成20年度の調査以降「男性の方が優遇されている」との回答が高い割合が続いている。

(%、ポイント)

	今回調査			前回調査			増減		
	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等	女性優遇	男性優遇	平等
家庭生活	7.1	57.4	26.8	9.2	52.1	29.4	△ 2.1	5.3	△ 2.6
職場	5.7	59.5	21.7	6.9	65.7	20.7	△ 1.2	△ 6.2	1.0
学校教育の場	3.6	22.0	50.9	4.1	16.9	58.8	△ 0.5	5.1	△ 7.9
政治の場	3.0	80.4	6.5	1.5	75.5	10.2	1.5	4.9	△ 3.7
法律・制度	5.1	48.2	27.1	6.9	49.6	24.8	△ 1.8	△ 1.4	2.3
社会通念・慣習・しきたり	1.8	77.1	8.3	2.3	78.5	7.4	△ 0.5	△ 1.4	0.9
社会全体	2.4	74.7	9.8	5.6	73.6	9.2	△ 3.2	1.1	0.6

※「女性優遇」～「女性が非常に優遇」「どちらかといえば女性」の計

※「男性優遇」～「男性が非常に優遇」「どちらかといえば男性」の計

(%、ポイント)

「平等」の男女比較	女性	男性	男女差
家庭生活	21.8	34.1	△ 12.3
職場	16.8	29.0	△ 12.2
学校教育の場	47.7	55.8	△ 8.1
政治の場	3.0	11.6	△ 8.6
法律・制度	19.8	37.7	△ 17.9
社会通念・慣習・しきたり	4.6	13.0	△ 8.4
社会全体	5.1	16.7	△ 11.6

「平等」を男女別にみると、すべての項目で男性の方が高い割合となっており、「家庭生活」では12.3ポイント、「職場」で12.2ポイント、「法律や制度の上で」が17.9ポイントと、特に男女間で差がある。

問18 女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」では女性の割合が高く、男性との割合も27ポイントの差がある。また、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」では男性の割合が高く、男女ともに女性自身がリーダーを「望まない・望まれていない」と感じていることが伺える。

(%、ポイント)

	全体	女性	男性	男女差
保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	69.6	73.6	64.5	9.1
保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	59.8	62.9	55.1	7.8
長時間労働の改善が十分ではないこと	50.3	54.3	44.9	9.4
上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	47.6	58.9	31.9	27.0
女性自身がリーダーになることを希望しないこと	40.8	36.0	47.1	△ 11.1
必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	38.1	36.5	39.9	△ 3.4